

# 史料叢書

第 67 号  
平成 9 年 9 月

## 『史料叢書』の刊行開始によせて

——第一巻『近世の村・家・人』の概要紹介——

史料館長 森 安彦

### 一、はじめに——史料叢書の構想——

史料館は平成八年度より、『史料叢書』の刊行を開始し、第一巻『近世の村・家・人』を同九年三月末に発行した。

『史料叢書』は全一〇巻を構想し、毎年一巻ずつの割合で一〇年間にわたり所蔵史料(マイク収集を含む)を中心とする重要史料を翻刻し、名著出版から刊行することとした。

その特色としては、次の三点をあげる事ができる。

①史料学、史料管理学の発達に寄与する史料集とする。幕府、藩、寺社、村、町、戸長、市町村、家、人など、史料を作成、伝来した組織体の機能、およびその史料管理の実態を明らかにする。

②一巻につき三年計画で刊行する。三年前に収録史料を選定し、二年前に筆稿・編集、当年に刊行する。

③史料保存利用機関としての史料館が発行する特色ある史料集とする。

全一〇巻の構成を刊行順に掲示すると次のとおりであるが、これはあくまでも予定であり、今後変更の可能性もある。

- 第一巻 近世の村・家・人(既刊)
- 第二巻 松代藩庁と記録
- 第三巻 村の統合
- 第四巻 戸長役場の史料
- 第五巻 農民の日記
- 第六巻 寺院と記録
- 第七巻 江戸幕府と記録
- 第八巻 大名家の記録

### 目次

『史料叢書』の刊行開始によせて 森 安彦……………(1)	国際学術研究「在英日本史料の所在と現状に関する調査」を終えて……………(7)
湖底に沈んだ村の文書目録……………(4)	史料学の第二回研究会報告……………(9)
史料館所蔵史料目録第六十三集を刊行して……………(5)	受贈図書……………(10)
特定研究第三回研究会報告……………(6)	史料管理学研修会カリキュラム……………(15)
	彙報……………(15)

第九巻 近世都市と社会集団

第十巻 近世の組合村文書

なお、史料館では、これまでに、『史料叢書』に先立ち、『史料館叢書』を刊行してきた。すなわち、史料館開館三十周年記念事業として、昭和五五年から平成五年にかけて、全一〇巻・別巻二冊を東京大学出版会から刊行した。参考までにその書名を提示すると次のとおりである。

- 第一・二巻 寛文朱印留上・下(昭和五五年)
- 第三巻 津軽家御定書(同五六年)
- 第四巻 播磨屋中井家永代帳(同五七年)
- 第五・六巻 徳島藩職制取調書抜上・下(同五八・五九年)
- 第七巻 依田長安一代記(同六〇年)
- 第八巻 真田家家中明細書(同六一一年)
- 第九巻 大塩平八郎一件書留(同六二年)

六二年

第一〇巻 近江国鏡村玉尾家永代帳(同六三年)

別巻一 明治開化期の錦絵(平成元年)

別巻二 江戸時代の紙幣(同五年)  
このたびの『史料叢書』は、この『史料館叢書』を引き継ぐものとして刊行されるものである。

### 二、第一巻『近世の村・家・人』の構成と概要

この第一巻『近世の村・家・人』の編集・刊行は森安彦が担当した。本書は、史料館所蔵史料三九三三件約五〇万点の中から、主題に関連した史料を二六件の家別史料の中から二二五点を選択して構成したものである。

本書は、村・家・人という単位や組織の中で近世史料がどのように作成され、機能し伝存してきたかを解明する一助ともなればと考え編成し

た。

本書は、表題のごとく、村・家・人の三章に区分し、各章の中をさらに四節に編成した。

本書に収録された史料は、地域的には、出羽・陸奥・常陸・下総・武蔵・越後・甲斐・信濃・美濃・伊豆・遠江・三河・伊勢・近江・和泉の一五六か国に及んでいるが、西国筋が皆無であり、これは史料館所蔵史料のあり方に制約されている。

また年代的には、天正一八年（一五九〇）から明治四年（一八七二）までの二八〇年間の各時代を包含している。なお巻末には収録した史料の家別史料目録を付した。

以下収録した史料について簡単にその編成と内容を紹介してみたい。

## 一村

近世文書が村単位に膨大な量で作成された必然性として、近世社会が兵農分離体制により、都市に居住する領主が村落に居住する農民を支配し、その伝達手段として文字を使用したことが指摘できる。また、近世の村が領主支配の行政単位として年貢負担の責任集団であるとともに、村民の生活共同体の基盤でもあったことにより、領主と村民、村民相互

の間に多くの文書が取り交わされた。

### (一) 村法度・村定

村が維持されていくためには、公儀（幕府）の法度（法律）だけでは不十分であり、村共同体の慣行や村民の自律的な取り極めを定めた村法・村掟、村議定などが必要であった。寛文五年（一六六五）から弘化二年（一八四五）までの二〇点を収録した（年末詳も数点含む。以下同じ）。

### (二) 村役人

近世の村運営の指導者であり、要ともいべき位置に存在したのが、庄屋Ⅱ名主、年寄、組頭、百姓代等の村役人である。この村役人は対村民、対領主と両面に対応し、文書収受の窓口であり、文書作成者であった。慶安二年（一六四九）から明治四年（一八七二）までの一五点を収録した。

### (三) 村民

近世の村民はどのような状況に置かれていたのだろうか。享保・天明・天保の大飢饉は有名であるが、それ以外の時代にも餓死者が存在したり、しばしば窮民調査が実施されていたことが判明する。延宝九年（一六八二）から明治四年までの八点を収録した。

## (四) 村と領主

近世の村は、領主支配下に置かれていたが、村民と領主の具体的関係はどのようなものであったのだろうか。村民生活と領主とのかわりを示す史料を寛文一〇年（一六七〇）から万延元年（一八六〇）まで七点を収録した。

## 二 家

一七世紀中頃から一八世紀前半（寛文・延宝・元禄・享保期）にかけて、中世の土豪に系譜をもつ大家族とその「下人」で構成される複合大家族が、分家や「下人」の独立によって解体し、夫婦・子どもを中心とした小人数の単婚家族が成立した。すなわち小農家族である。この小農家族の永続を図るために、さまざまな史料が作成された。ここでは、家という組織や機能の中で作成された史料を編成した。

### (一) 家訓

家の永続と教育機能をもつものとして家訓がある。家訓の多くは先祖崇拜を基本に日々の生活の心掛について述べている。

正徳期（一七一―一五）から明治三年（一八七〇）までの一〇点を採録した。

### (二) 相続

小農家族の永続は相続によって継承されていった。相続に関する史料は少なくない。家財諸道具目録や財産分与に関する取り極め証文、家督相続に関する諸事定書等がみられる。享保一四年（一七二九）より安政六年までの一二点を収録した。

### (三) 家格・由緒書

家意識は、家格を誇り合う傾向を生み、系図や由緒書などを生み出した。小農の成立は主として分家相続や「下人」の自立（分家に擬制）による事例が多いが、近世中期になるとその系譜を遡る家意識が強まってくる。自家の成り立ちを記すばかりでなく、村内の百姓の由緒をまとめる場合もあり、百姓意識として村や地域における家の体面や家格保持の願いの現れとして見る事ができる。享保九年（一七二四）から寛政一一年（一七九九）までの六点を収録した。

### (四) 蔵書

村民の識字力がたかまり、多くの人々が文字を読み書きするようになると読書熱が広まった。村役人の中には書籍を収集し、家財として豊かな蔵書を所有し、村人に貸し出した者もいた。図書館機能を有するようになったともいえよう。ここでは、

甲斐国下井尻村依田家、信濃国松代伊勢町八田家、越後国岩手村佐藤家の蔵書目録とそれに関連する文書を享保一五年（一七三〇）から文政九年（一八二六）までの六点を収載した。

### 三 人

近世社会においては個としての人の存在は見えにくいものと考えられていた。個の尊重は近代社会で成立したものであり、前近代社会においては、人は家族の一構成員としてのみ存在し、長男であれば家の相続人としての地位が与えられ、次三男や娘は婿や嫁となって他家の継承に寄与する存在として居場所を与えられていた。家を離れては個人は存在しないと見なされ、いわば個人は家に埋没された存在として把握されてきた。しかし、近世史料の中には、人の誕生から死に至る一生に関する史料が少なくない。また個人を主体としたさまざまな記録が残されている。ここでは、これらの史料を編成してみた。

#### (一) 子どもと若もの

生命の誕生から若ものへの成長過程を史料で追ってみた。誕生祝いに始まり、当時の子どもの病気の中で一番恐ろしい疱瘡（天然痘）には、親

族や村民が全快を祈って見舞物を贈った。八、九歳から十二、三歳にかけて手習塾（寺子屋）に通って文字や算用の勉強をした。一五歳になると元服し、若者組の仲間入りをし、一人前として取り扱われた。

構成としては、(1)子ども (2)手習い (3)若もの の三項からなり、宝永二年（一七〇五）から明治四年（一八七二）までの二八点の史料を収録した。

#### (二) 結婚と離婚

結婚は男にとっても女にとっても人生の一つの大きな節目といえる。とくに江戸時代には、人々は家の存続という大きな課題を背負って生きていた。結婚は、成人としての自立であるとともに、家の中では世代交代を促すものであった。すなわち、家承続のための受皿となる新世代夫婦の誕生である。それ故に、家族、親族、村民あがての祝賀行事であった。しかし、結婚があれば離婚もあった。ここでは、(1)結婚 (2)離婚・復縁 の二項目から構成した。寛文九年（一六六九）から慶応四年（一八六八）までの一九点を収録した。

#### (三) 老・病・死

人生の晩年にせまりくる老・病・死という問題を史料で構成してみた。

これらの課題はいつの時代にも存在してきたのであり、個人としても、家としても、村や社会、そして権力としても対応してきた。近世社会にそれらがどう表現されるのか、史料からうかがってみた。

(1)隠居と扶養 (2)遺言状 (3)病氣 (4)葬儀・埋葬 の四項目から構成した。寛文八年（一六六八）から明治四年（一八七二）まで四四点を収録した。

#### (四) 生活と文化

ここでは、個人の名前で作成される証文、事件、旅や文芸活動、そして意見や意識、また食文化の貴重な史料である献立等も収載した。

近世の文字社会は、約束事を証文にしたり、取引を契約書としてお互いに守る習慣が普及した。これは恣意的な強制力を排除し、なるべく相互の了解のもとに事を運ぶという合理的な姿勢を生んだ。

また文字の文芸としての俳諧は、人々の生活の中に入り込み、各地に俳諧の「連」が組織され、人々の交流と楽しみの場となった。当時政治批判などが許されなかった民衆は文字を使って、落首・風刺で為政者を揶揄して溜飲を下げたのである。

ここでの構成は、(1)金銭貸借と土

地証文 (2)被官・奉公人 (3)勘当・褒賞・事件 (4)旅行 (5)俳諧・落首・風刺 (6)意見・意識 (7)献立日記 から成る。寛永一三年（一六三六）から明治二年（一八六九）まで三九点を収録した。

### 三、おわりに

以上が本書の編成と簡単な概要であるが、個々の史料は、それぞれ特定地域の個別事情のもとで作成されたものであり、歴史研究としては、個々の史料の史料群に立ち戻らなければならぬことはいままでもない。しかし、比較地方的視点で見れば、これらの史料は、また新しい意味を帯びてくるといえるだろう。本書を契機に史料館収蔵史料の利用度の一層高まることを期待するものである。

『近世の村・家・人』A5版上製 函入、四〇〇頁、名著出版、本体価格、八五〇〇円（税別）

# 湖底に沈んだ村の文書目録

## ——「武蔵国多摩郡後ヶ谷村杉本家文書目録」の刊行——

森 安彦

### 一、はじめに

本目録は、平成八年度の史料館所蔵史料目録第六十五集として、平成九年三月に刊行された。編集担当は森安彦である。

杉本家文書は、一九五五年（昭和三〇年）度に、原蔵者杉本氏より、当史料館へ譲渡されたものである。

杉本家文書は当館へ譲渡される以前に、文書の整理が試みられ、簡単な目録が作成されていた。その整理は文書を編年順に配列したものであり、文書には番号の記入されたラベルが付されていた。また、文書は、ボール紙で作成され、浮世絵の貼られた箱七五箇に収納されていた。

今回の目録作成にあたり、これまでの整理には、とらわれず、まったく新しく編成した。

### 二、後ヶ谷村の概要

近世の武蔵国多摩郡後ヶ谷村は、現在は東京都東和市狭山に含まれる。後ヶ谷村は江戸期から明治八年（一八七五）までの村名であり、同八年に後ヶ谷村と宅部村とが合併し

て狭山村となったのである。

明治後半から大正期にかけて東京の発展による人口の増大により莫大な飲料水の確保の必要から、狭山丘陵に貯水池をつくることが決まり、昭和二年（一九二七）に村山貯水池（多摩湖）が完成し、多くの村々とともに旧後ヶ谷村の大半も湖底に沈んだのであった。

近世の後ヶ谷村は、近世初期は旗本溝口・逸見両氏の相給であったが、延宝二年（一六七四）以降幕府領となった。近世中期以降の村高は二〇三石余、家数四五軒、人口は二二〇から二五〇人ぐらいで、主な産業は農業であったが、狭山茶と村山緋（木綿）が名産であった。

### 三、名主杉本家

杉本家は後ヶ谷村の名主役を代々世襲し、明治五年（一八七二）には名主から副戸長へと名称が変化した。村政の指導者として存在した。

杉本家については「代々のかがみ」（昭和六年、編纂発行者杉本寛二）、『杉本家系譜』（昭和一五年、編刊行

杉本寛一、謄写印刷）が存在する。

杉本家は天正一八年（一五九〇）徳川家康が江戸に入ると庄屋役に取り立てられ、当主勘解由は元和元年（一六一五）五月五日地頭逸見四郎左衛門と共に大坂に出陣し、同六月二八日戦死したとある。

杉本家は元禄期（一六八八—一七〇三）にはすでに名主役となっているが、代々の通称は左衛門または勘左衛門である。

杉本家の持高は天明二年（一七八二）頃までは一六石余りであったが、寛政六年（一七九四）以降は約二倍の三一石余りとなった。

天保三年（一八三二）二〇歳で名主となった勘左衛門は同九年平重郎と改名し、林志と称した。彼の大きな業績は「狭山の葵」を著作したことである（昭和一四年杉本寛一発行）。同書は狭山丘陵を中心とし、その周辺の村々の歴史や記録をまとめた貴重なものである。（杉本林志伝）昭和一年、編纂兼発行者杉本寛一、私家版）。

### 四、杉本家文書の目録編成

杉本家文書は、目録点数二七七四点であるが、文書総点数は三五九三点に及ぶものである。

文書の形態で示すと、冊子型（帳）文書七三二点（二〇・三％）、書状文

書二六五八点（七三・九％）、綴文書一一九点（三・五％）、鋪七四二点（二・一％）であり、文書の大半は書状文書である。

杉本家文書の年代的な存在状況をみると、原文書で一番古いものは、寛永二十一年（一六四四）の「前沢御鷹野割当帳」や寛文九年（一六六九）の「検地水帳」等であり、新しいものは昭和一五年のものがある。杉本家文書の大半は享保期以降であるが、元禄期のものも多少ある。

杉本家文書の目録編成の基本には、名主役・副戸長など村政に関する公的文書と杉本家の家を中心とした私的文書の二つに大別した。

前者の公的文書は近世の名主役と明治初年の副戸長の二区分を設けた。名主役文書は総点数二〇四六六（五六・九％）、副戸長文書は四〇〇三（一一・二％）であり、私文書を中心とした家文書は一一四四四（三一・八％）という構成になっている。

杉本家文書の特徴としては、名主・副戸長時代の村政の公的文書がよく充実し、家の私的文書もよく包含されている。

なお、小稿作成にあたり、原蔵者子孫杉本太一氏の協力を得た。記して感謝の意を表したい。

# 史料館所蔵史料目録第六十三集を刊行して

福田 千鶴

史料館の所蔵史料約五〇万点は、閲覧室に常置してあるカード目録・仮目録A・仮目録B等により、ほとんどの史料の閲覧ができる体制をとっている。しかし、これらの検索手段は、表題・年号・点数・形態といった、きわめて初歩的な史料情報しか記載されていない。それは、早急に閲覧体制を整えるための応急措置的整理を第一の目的とした検索手段の作成であったことに基づくものだが、実際の利用にあたっては単体史料の情報すら十分ではなく、まして近年史料館で提唱している史料群情報の集合記述などはいっさいなされていない。そのため、史料館ではさらに詳細かつ総合的な史料情報を含む冊子体目録の刊行を進めており、私はその第六十三番目の目録を担当することになった。

第六十三集は「山城国諸家文書目録(その一)」と題し、当館が所蔵する山城国関係の未整理ないし仮整理文書群のうち、葛野郡嵯峨天龍寺塔頭臨川寺文書・京都三條家文書・京都清水谷家文書・乙訓郡長野新田

村三宅家文書・同郡菱川村文書の五件を収録した。これ以外の山城国関係の未整理文書群七件は、引き続き「山城国諸家文書目録(その二)」に収録の予定である。目録に収録する史料群の選定は目録担当者に委ねられているが、これまでの方針では数千から数万点に及ぶ大文書群の目録刊行が優先されていたといえる。

史料館の目録編成では一冊約三〇〇〇点という一応の目安があるため、一つの文書群が数千点であれば一冊完結となるが、たとえば越後国頸城郡岩手村佐藤家文書約一万二千点のような大文書群の場合は、四冊の分冊目録が刊行されている。逆に、中小文書群を扱う場合には複数の文書群を合わせた合冊目録を刊行しているが、合冊に際しては、大名、旗本、県庁文書、村文書といった出所類型別編成をとったものが多い。

ところで、私は一九九三年に史料館に職を得たが、就任すると早々に史料館の第一の業務である目録刊行においては、構造分析ができる文書群を選定した方がよい、そのために

は大きな文書群を選ぶ必要があるとのご指導を、内外を問わず数人の方々から受けた。今ならば、中小史料群の整理といえども階層構造の分析を伴わない史料整理はないとの考えを示せるが、そのころの私は構造分析の「こ」の字も理解しなかったため、「階層構造分析のできる大文書群」を求めて薄暗い書庫の中をうろつく日々が続いた。また、私の属する第一史料室の業務は「武家・公家および神社に関する史料の調査研究および収集・整理を行う」とあり、

一方で自らに課された任務に忠実であらうとした私は、自ずと武家・公家・神社史料の中に「大文書群」を求めることになったが、いわゆる右の範疇の「大文書群」はすでに目録刊行済みであるか、現在刊行中のものであり、私は「もつと光を」と叫びたい状態に陥った。

そのうちに、史料管理学研修会の講義準備の過程で寺社史料論・公家史料論が十分ではないと感じるようになり、寺社・公家文書の整理に取り組もうと真摯に考えたが、寺家、公家という史料体系を異にする文書群を一つの目録に収録することの積極的意味は何かと隣部屋のS教授から指摘され、「地域」という切り口

で編集することを思い立った。その結果、文書群の最大は臨川寺文書六九五点、最小は菱川村文書一五三点となったが、後者のような小文書群が史料館所蔵史料目録に収録されるのは今回が初めてである。大きさを承知でいえば、これは史料館の目録編成史上において画期的なことといえ、史料館所蔵の小文書群の今後の扱いを考える上での一つの指針を示すことになった。

また、山城国Ⅱ「地域」という切り口を設定したことで、寺家、公家、村の各家といった多様な文書群を収録することになった(その二には、商家も入る予定である)。その経過は多少瓢箪からコマ的な部分もなきにしてもあらずだが、これまでの出所類型別編成が史料論をヨコに広げる作業とすれば、地域別編成は史料論をタテに繋げる作業であり、一つの文書群の構造分析をする作業は史料論をオクに深める作業である、などと、初めての目録刊行を終えて、一人で悦に入っている次第である。

なお、本文は本来ならば一九九六年度発行の館報に載せるべきであったが、私の長期在外研修による不在のため、本号掲載になった次第をお詫びかたがた付記しておきたい。

## 特定研究第三回研究会報告

昨(平成八)年度から本格的に開始した特定研究(課題「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」)の第三回研究会が、一九九七年三月七日に第三・四部会を中心に当館で開催された。以下に両部会の概要について報告をまとめた。

## 第三部会「整理と情報化」

本部会は、当面の研究テーマを、日本及び世界における記録史料の目録編成と記述論の現状と課題を把握し、その問題点や課題を検討することに設定した。

当日は、上記の課題に関連して以下二本の報告を行った。

①「日本中世記録史料の編成と目録論の現状ならびに課題―特に寺院史料を素材として―」(報告者〓史料館客員教授、日本女子大学文学部教授 永村 眞)

②「ISAAD(G)をよむ―記録史料記述の国際標準化のめざすもの―」(報告者〓史料館非常勤研究員 森本 祥子)

①は寺院史料の調査と整理の経験

を基軸に、イ、寺院史料について(特徴、調査の姿勢)、ロ、寺院史料の調査(史料探訪の目的、史料整理、調査採取、目録編成)、ハ、目録情報のDB化(DBの機能、DB処理システムの設計、DBの生成、DB

の活用、DBの課題)について報告された。特に寺院史料の整理については、伝存条件の確認、分類・配列の方針、保存措置など基本的姿勢を確認し、目録編成については目録の機能や形式、調査作成の具体例について報告され、さらに電子化に向けての具体例と課題が示された。

②は、イ、前回の復習(記述の定義、各国で開発されてきた諸標準)、ロ、国際標準作成の経過(記述標準の目的、ポイント)、ハ、ISAAD(G)の読み方(基本理念、構成)、ニ、今後の展望―典拠コントロールへ、について報告された。

これらの報告について活発な討論を行ったが、紙数の関係で、国際標準をわが国の実状に即し如何に対応が可能かが緊急課題であることだけ指摘しておきたい。(山田哲好)

## 第四部会「保存と修復」

本部会は、記録史料管理システムの内、保存管理についての研究課題を担当する。今研究会においては、「保存原理・政策論」「修復保存論」に関わる報告を行い、その領域の研究を進めた。

報告一 沖縄県公文書館における保存修復部門の現状(報告者〓宮城 保) 沖縄県公文書館は、組織上に保存修復部門を位置づけた唯一の文書館であり、その保存政策上の指針についての報告から始めた。琉球王府時代から現代までの歴史と二度にわたる沖縄関係資料の消失という経緯を説明し、公文書館建設の意義と概要を報告し、歴大な収蔵史料、特に現代史料の修復処置に対応する修復専門職員の配置について詳細な報告が行われた。

報告二 近・現代簿冊史料群への保存手当(報告者〓木部徹(有)CA T) 近・現代史料は、それ以前に比して保存処置の対象として重要視されていない点を問題として提起し、劣化し自壊的要素を多く含み、かつ数量的にも龐大である史料にこそ早急なる対処を求めなければならぬという視点から報告を行った。

その内容は、いかに近現代の史料

が脆弱であるか、その劣化症状の事例を提示し、沖縄県公文書館の琉球政府文書を対象とした保存状態の調査事例の報告を主として、史料の症例ごとの詳細な修復方法についても言及した。

報告三 各種電磁波を用いた乾燥技術と殺虫技術について(報告者〓村田忠繁 元興寺文化財保存修復研究所) 近年、生物被害(害虫駆除)に関する欧米の基本的考え方に、大きな変化が起きた。一九七〇年代は、殺虫殺菌燻蒸第一主義で、化学薬品の使用が全盛であったが、その後、一九八二年、殺菌剤の酸化エチレンが発ガン性物質として規制が開始され、一九九二年に殺虫剤である臭化メチルも国連環境開発会議においてオゾン層破壊の疑いがある物質にあげられ、二〇一〇年には全廃の方向で進んでいる。現在、これに代わる処置方法を考える必要に迫られている。そこで、各種電磁波による海外の処置方法についての実験成果について報告し、それぞれの方法について研究協議を行った。内容は、「ガンマ線、電子ビーム、マイクロウェーブによる紙の殺菌法(フランス)」「保存文書・図書を保護する設備(中国)」等である。(青木睦)

## 平成七・八年度科学研究費補助金（国際学術研究）

## 「在英日本史料の所在と現状に関する調査」を終えて

一九九五（平成七）年度および一九九六（平成八）年度の二年間、森安彦史料館長を研究代表者として、文部省科学研究費補助金（国際学術研究）による標記の海外学術調査を実施した。その成果は『在英日本史料の所在と現状に関する調査』研究報告書（国文学研究資料館史料館、一九九七年三月）として刊行したので、詳しくはそれを見ていただきたいが、ここではその紹介をかねて二年間の調査概要を記したい。

なお本研究には、研究代表者のほか、史料館の教官九人（高木俊輔・鈴江英一・丑木幸男・山田哲好・大友一雄・安藤正人・福田千鶴・渡辺浩一・青木睦）と大口勇次郎お茶の水女子大学文教育学部教授、神立孝一創価大学経済学部教授の十一人が研究分担者として加わった。また、調査の準備や研究成果報告書の取りまとめは、森本祥子史料館講師（非常勤研究員）の力によるところが大きかった。

## 1 調査の目的

史料館はこれまで長年にわたり、

近世近代を中心とした文書記録史料の所在調査を全国的に実施してきた。しかしわが国の文書記録史料は国内だけに残存しているわけではなく、歴史的に重要なものが大量に海外に流出し、かつその多くが未整理であったり不適切な保存状態に置かれていたりといわれている。本調査は、これら海外流出史料の所在と保存状況を調査し、その情報を史料館の「史料所在情報データベース（SINDBAD）」に組み込んで内外の研究者に広く公開することを目的としたものである。またあわせて、原史料の保存管理について海外の所蔵機関に何らかの形で協力ができないか、その可能性を検討することも調査のうち一つのねらいとした。

## 2 調査の対象

もつとも海外といってもあまりに広い。そこで今回はとりあえず対象をイギリスに絞った。

本調査の主たる対象は、①日本の

各種組織（幕府、藩、政府、企業、

団体等）または日本人が日本国内において活動上作成し保管していた生の文書記録史料（いわゆる archival material）のうち直接ある、は間接に英国に流出したもの、②日本の各種組織または日本人が国外において活動上作成し保管していた文書記録史料（たとえば在外公館や企業の海外支店等の記録史料など）で現在英国内に存在するもの、の二つである。また主たる調査対象ではないが、日本の各種組織や日本人が英国の組織や個人に宛てて送付した文書等も、必要に応じて調査することとした。

著作作品の写本、古版本、絵巻物などはここでいう文書記録史料にはあたらないし、すでに他のプロジェクトで調査に着手しているので原則として対象からはさすが、調査対象となる記録史料群（コレクションや同一出所のレコードグループ）の一部にこれらが含まれている場合は、できるだけ採録することとした。

年代範囲は、原則として、第二次世界大戦終結時（一九四五年）以前に作成されたものをすべて対象とすることにした。

## 3 調査の実施

調査は、まず事前調査として、①文献による情報収集、②英国機関へ

の文書による照会、③個人からの情報収集、をおこなった。詳細は省くが、①では Foster & Sheppard, British Archives: a guide to archive resources in the United Kingdom, 3rd ed. Macmillan, 1995. など、全英にわたる史料保存機関ガイドが充実しており大変役立つ。これらを情報源にして、②では合計五二機関に日本史料の所蔵の有無について照会文書を送付した。うち回答があったのは四五機関である。③では、ここではお名前をあげることができないが、日本国内および英国在住の約二十人の方々に貴重な情報をご提供いただいた。

以上の事前調査にもとづいて英国での現地調査を実施した。現地調査は、ほぼ四人一組でチームを編成し、調査期間は一回二週間を標準として、一九九五年度は四チームのべ十三人、一九九六年度は四チームのべ十七人を英国に派遣した。

調査対象機関を所在地のアルファベット順にあげると次の通りである（カッコ内は所在地。一部、文書による調査のみの機関も含まれる）。  
ウエールズ 国立図書館  
(Aberystwyth)

バーミンガム図書館 (Birmingham)

ブリストル大学図書館(Bristol)  
サフォーク県文書館(Bury St  
Edmunds)

ケンブリッジ大学図書館  
(Cambridge)

ケンブリッジ大学セントジョンズコ  
レッジ文書館(Cambridge)

ダーラム大学図書館(Durham)  
スコットランド国立図書館  
(Edinburgh)

スコットランド国立公文書館  
(Edinburgh)

グラスゴー大学文書館(Glasgow)  
グラスゴー市ミッチェル図書館  
(Glasgow)

リバプール博物館(Liverpool)  
リバプール大学文書館(Liverpool)

英国図書館東洋インド省資料部  
(London)

ビクトリア・アンド・アルバート美  
術館(London)

国立海事博物館(London)  
国立史料登録局(London)

ウェルカム医学史研究所文書館  
(London)

帝国戦争博物館(London)

ロンドン大学東洋アフリカ学院図書  
館(London)

マンチェスター大学ジョン・リーラ  
ンド図書館(Manchester)

マンチェスター市中央図書館  
(Manchester)

国立労働史博物館(Manchester)  
タイン・アンド・ウェア県文書館  
(Newcastle)

ローズハウス図書館(Oxford)  
ボードリアン日本図書館(Oxford)

国立公文書館(Richmond)  
キュー王立植物園文書館  
(Richmond)

シェフィールド文書館(Sheffield)

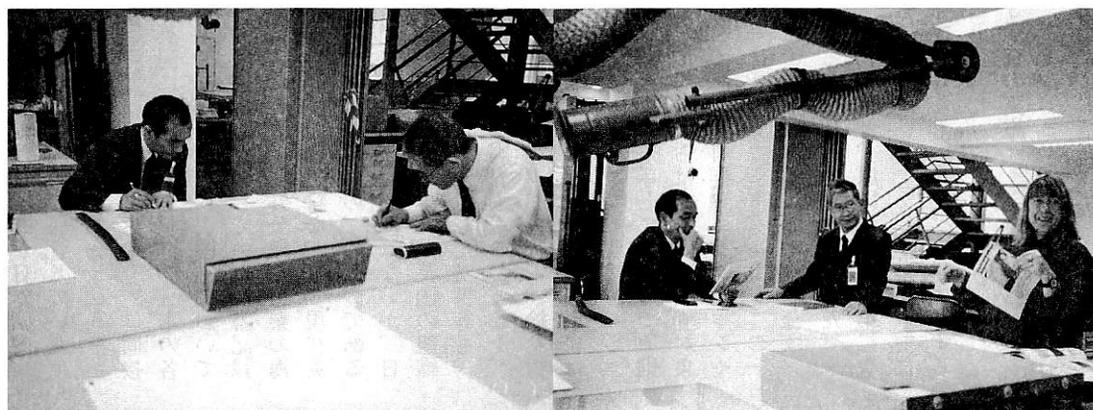
以上の機関の調査結果は、前掲の  
『報告書』に機関ごとに概要を記し  
ている。また英国図書館東洋インド  
省資料部など主な機関については、  
調査史料リストもあわせて掲載した  
ので参照されたい。

4 調査の成果

今回の調査で、在英日本史料の所  
在と現状がかなり明らかになった。

英国に所在する日本史料は、量的  
には英国図書館東洋インド省資料部  
をはじめとする比較的少数の機関に  
集中しており、その中心は、シーボ  
ルトやケンペルなど江戸期に日本に  
滞在した外交官や学者の個人コレク  
ションであるということがいえる。

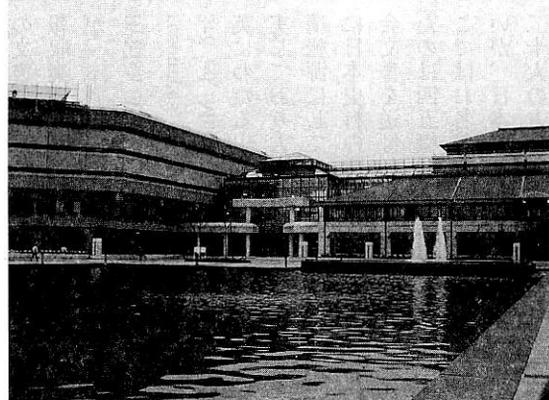
日本の機関または日本人が作成し  
た記録史料で、個人による収集以外  
の理由で英国に流出したもの、ある



▲ Victoria and Albert Museum, Conservation Department (London)

ヴィクトリア&アルバート美術館に収蔵されている「パークス和紙コレクション」の調査：紙名票などが数多くあり、和紙のタイプごとに整理されて、中性紙保存箱に収納されている。

◀ Public Record Office (Richmond-upon-Thames)  
英国公文書館の前庭



## 報告

### 基盤研究A「幕藩領主文書と村方・町方文書群の発生

#### ・展開並に伝存に関する史料学的研究」第2回研究会

いは英国に残存したものは、戦時中にロンドンやベルリンの日本大使館から押収されたとみられる外務省記録などを除いてあまり多くを見いだすことができず、この点では、従来通説を大きく塗りかえるような大きな発見はなかった。

しかし同時に、在英日本企業や在英日本公館などの記録史料の所在については、英国内でもこれまであまり本格的に追跡調査されたことがなく、そのような種類の日本史料が英国のどこかに眠っている可能性は依然として否定できない。

今回調査を行った機関においては、本研究が調査対象としている記録史料のみならず、和古書、絵画等、日本関係のコレクションを一括して管理しているところが多く、整理方法も機関によってまちまちであるように見受けられた。またそれぞれの機関が作成している日本史料の目録は一般に極めて簡略なものであり、伝来や文書群の構造等の記録史料学的な分析に基づいた本格的な目録作成は、多くの機関にとって今後の課題となっていることが判明した。

史料の保存状態はおおむね良好であったが、なかには劣化損傷のはなはだしい史料が修理されないまま雑

然と保管されている場合や、不適切な補修が施されている場合もないではなかった。このような事例は、日本史料を取り扱うことのできる職員が長期にわたって配置されていない機関においてまま見受けられ、今後大きな課題が存在することが明らかになった。

#### 5 おわりに

本調査で収集したデータは、史料館の「史料所在情報データベース(SINDBAD)」に入力して公開したいと考えている。現在その作業途上である。また前掲「報告書」を英訳して英国をはじめ海外関係機関へ送付することも、国際学術研究の成果公表の方法として必要なことであろう。それも今後の課題である。

英国の日本史料所蔵機関に対する協力については、①整理と目録作成、②保存修復、の二つの面で可能であると考え、あくまで先方機関からの依頼にもとづき、相互互恵の原則で行う必要があることはいうまでもない。

なお一九九七(平成九)年度から、対象国を広げて、新しい国際学術研究「在欧日本史料の所在と現状に関する調査」に着手していることを付記しておく。

(安藤正人)

平成七年度から三年計画で表記の共同研究を進めている。一九九七年

二月二日、その第二回研究会を国文学研究資料館大会議室Bにおいて開催した。出席者は、館外からは金行信輔氏(東京大学大学院)・佐藤孝行氏(東京大学)・富膳一敏氏(日本学術振興会特別研究員)・保坂裕興氏(駿河台大学)・山崎圭氏(名古屋大学大学院)・渡辺尚志氏(一橋大学)の六名、および当館からは森安彦・高木俊輔・山田哲好・福田千鶴・大友一雄・渡辺浩一・丑木幸夫・安藤正人・青木睦の計一五名であった。

今回の研究会では、左掲の三名の研究分担者による報告をおこなった。

- ①青木睦「高山町年寄保管の文書保存容器について」
- ②渡辺尚志「大名家文書の中の『村方文書』―松代真田家文書を事例として―」
- ③高木俊輔「梅村騒動と郡中惣代」

①は、高山町組合町(老之町・二之町・三之町)の世襲町年寄(矢嶋

・川上・矢貝氏)、および高山町会所に保管されたとみられる文書保存容器七点の材質・容量・様式・製造方法・箱書・貼紙などの比較・検討を通して、その類似性と相違点を整理し、高山町の文書管理のあり方を「モノ」史料の残存状況から復元しようとしてみた。かつ、保存容器の調査方法がまだ標準化にいたっていない問題点を指摘した上で、今後の課題は飛騨高山地方の指物研究にあるとした。

②は、松代真田家文書の中に多く伝存する、いわゆる「一件文書」の中から、文化一二年から文政二年にかけて幕領と真田藩領の間に生じた「仙仁村入会山一件」の事例を選び、この争論の過程で、百姓、徒目付・勘定役・郡奉行・家老・中之条代官所役人・職奉行などの間で発給・授受された文書の相互関係を提示し、複雑な訴訟過程、百姓側の争点、領主側の争論への関与などを解明した。これらの文書群は「村方文書」としては伝存せず、郡奉行のもとで「大

名文書」として保管され、村側には部分的に控・写などで残されたと考えられる。本報告では、幕藩領主文書の史料学的検討を通して、村に伝存する「村方文書」のみから村落史を構成していた従来の研究方法の見直しをはかった。

③は、明治維新に際して、郡代支配から新政府直轄県政へと転換した飛騨地方に、東海道鎮撫使先鋒として派遣された竹沢寛三郎の二ヶ月に及ぶ支配が、続く梅村速見の県政の下で理想化され、反梅村の一拠点とされていく過程を郡中会所より郡中惣代の動きを中心に検討した。特に、竹沢の控文書で、同氏の子孫のもとに伝存した「御用案文書控」の中で、竹沢失脚と関連する「年貢半減」問題の箇所が抹消されていることを指摘し、法令発布からその取消しにいたる過程が史料上から伺えること、竹沢支配期には地役人文書、町会所文書は残されているが、郡中会所文書は郡中惣代を勤めた押上家文書の中にも見られない点などが、当該期の史料伝存の特徴とした。

各報告のあとに簡単な質疑・応答をおこなった。①については、まず何をもちって「文書筆筒」と定義するかという概念化の問題が提起された。

次に、高山町で「文書筆筒」が作成されるようになる歴史的背景の解明、及び実際に残存する「モノ」の分析から得た情報を文献史料などを援用しながら、史料管理史上に位置づける必要性が指摘された。

②については、幕領と藩領の訴訟システムの違いを考慮する必要性、一件文書として類似性のある松江藩郡奉行所文書との比較検討、本報告で紹介された事件以外で一件文書が作成される案件の範囲、あるいはその初見、真田家文書における一件文書の全体的位置づけなど、史料学的に未開拓である一件文書を多角的に分析する必要性が指摘された。

③については、めざましい研究の進展がある他地域の郡中惣代と比較した場合の飛騨地域の特質の説明が求められた。報告者は郡中会所文書が史料群として伝存しないため、不明な点が多いとし、これまでの調査が陣屋文書、町年寄文書の調査が主体であり、今後は郡代文書の追跡調査が大きな課題になるとした。さらに、現実には郡代文書が伝存しないとすれば、それが当該地域の郡中惣代の性格の一端を示すとみられ、同地域の地役人・郡中惣代・町会所間の文書の授受関係、及び文書保管のあ

り方が文書の伝存形態に与えた影響などをあわせみることと解明される部分もあるうとした。

## 受贈図書 平成八年度 (四)

(一)内は寄贈者名(敬称略)ただし、省略されている場合があります。

下別府一字一石経塚〔宮崎県教育委員会〕  
上の原第2・第3遺跡〔宮崎県教育委員会〕

I、II〔全国美術館会議〕  
アジアの文書館〔Museum Kyushu〕  
広島県立文書館規程録〔広島県立文書館〕  
和歌山県立文書館例規集〔和歌山県立文書館〕

学頭遺跡・八尾遺跡発掘調査報告書〔宮崎県教育委員会〕

沖縄県公文書館資料〔沖縄県公文書館〕  
経済史文献解題 1994 (平成6)年度版〔日本経済史研究所〕

尾平・檜原遺跡〔宮崎県教育委員会〕

国立歴史民俗博物館資料調査報告書7-1、7-2〔国立歴史民俗博物館〕

打扇遺跡・早日渡遺跡・大野原遺跡蔵田遺跡〔宮崎県教育委員会〕

文書館学文献目録〔全国歴史資料保存利用機関連絡協議会〕

南日本文化研究所叢書 20〔鹿児島県短期大学付属南日本文化研究所〕

岡山大学文学部研究叢書 12〔岡山大学文学部〕

鹿児島県史料 旧記雑録拾遺家わけ六、玉里島津家史料五〔鹿児島県〕

人文研ブックレット No3、4〔同志社大学人文科学研究所〕

沖縄県史料 前近代9〔沖縄県教育委員会〕

日上市郷土博物館開館二十周年記念誌〔日上市郷土博物館〕

可睡齋史料集 第四卷〔思文閣出版〕  
中央大学史資料集 第十四集〔中央大学〕  
九州大学大学史料叢書 第3、4輯〔九州大学〕

熱田神宮文化叢書 第十〔熱田神宮〕  
金光教教典 人物誌〔金光教本部〕  
仏教文化論集 第六、七輯〔川崎大師平間寺〕

杏林大学社会科学部十年の歩み〔杏林大学〕

喜多院日鑑 第八卷〔川越〕喜多院

明治大学の発祥〔明治大学〕

希望を星につなげ 望星学塾〔東海大学〕

阪神大震災美術館・博物館総合調査報告

喜多院日鑑 第八卷〔川越〕喜多院

希望を星につなげ 望星学塾〔東海大学〕

喜多院日鑑 第八卷〔川越〕喜多院

- 喜多院日鑑 第五巻読み下し〔同右〕
- 江戸幕府御内書の基礎的研究〔上野秀治〕  
書籍史料の特性と調査方法について〔藤  
實久美子〕
- 地域資料としての公文書〔大和武生〕
- 東京大学日本史学研究叢書 2-4〔東  
京大学日本史研究会〕
- 霞会館会員名簿 平成八年度〔霞会館〕
- 西園寺公望傳 第四巻〔立命館大学〕
- 広島経済大学研究双書 第14、15冊〔広  
島経済大学〕
- 住友史料叢書 宝暦六年日記他〔住友史  
料館〕
- 転換期の法学・政治学〔北海学園大学〕
- 租税資料叢書 第九巻〔国税庁税務大学  
校〕
- 諸国叢書 第十三輯〔成城大学民俗学研  
究所〕
- 甦る明治大正の記録〔横浜開港資料館〕
- 社寺の国宝・重文建造物等棟札銘文集成  
〔国立歴史民俗博物館〕
- 幕末の鉄座設立運動と山緒〔渡辺尚志〕
- 石炭研究資料叢書 No 17〔九州大学石炭  
研究資料センター〕
- 近世鉱山社会史の研究〔荻慎一郎〕
- 馬の文化叢書 第十巻〔馬事文化財団〕
- 根岸の森の物語〔同右〕
- 近世・近代期鯉魚肥市場の構造と展開  
〔中西聡〕
- 日本近代の地域と流通〔原直史〕
- 近世女性旅と街道交通〔深井甚三〕
- 図書寮叢刊 九条家本玉葉三、書陵部蔵  
書印譜上〔宮内庁書陵部〕
- 新修釧路市史 第三巻〔釧路市〕
- 福島市史資料叢書 第67、68輯〔福島市  
教育委員会〕
- 取手市史 通史編Ⅲ〔取手市教育委員会〕
- いまいち市史 史料編・近現代Ⅲ〔今市  
市〕
- みよしほたる文庫 3〔埼玉県〕 三芳  
町教育委員会〕
- 春日部市遺跡調査会報告書 第4集〔春  
日部市遺跡調査会〕
- 船橋市史 史料編八、原始・古代・中世  
編〔船橋市〕
- 我孫子の歴史を学ぶ人のために〔四〕  
〔我孫子市教育委員会〕
- 千葉県議会史 第七巻〔千葉県議会〕
- 葛飾区古文書史料集 九〔葛飾区郷土と  
天文の博物館〕
- 江東区資料 牧野家文書三〔江東区教育  
委員会〕
- 開成町史 資料編近代・現代〔神奈川  
県〕開成町〕
- 山梨県史資料叢書〔村明細帳入代郡編〕  
〔山梨県〕
- 裾野市史 第三巻資料編近世〔裾野市〕
- 図書館叢書 6〔浜松市立中央図書館〕
- 志摩漁村の構造〔愛知大学総合郷土研究  
所〕
- 大阪市史史料 第四十七輯〔大阪市史編  
纂所〕
- 淀川文化考〔3〕〔近畿大学文学部〕
- 呉の歩み Ⅱ〔呉市〕
- 宮崎県史 史料編8近世5、史料編13近  
・現代4〔宮崎県〕
- 宮崎県史叢書 1〔同右〕
- 招かれたプロメテウス近代日本の技術発  
展〔風行社〕
- 経塚出土陶磁展 二〔奈良国立博物館〕
- 唐人りー秀吉の朝鮮侵略―〔佐賀県立名  
護屋城博物館〕
- 日本の美「琳派」展〔堺市博物館〕
- むらの記録〔向日市文化資料館〕
- 浪花百景〔大阪城天守閣〕
- 幕末維新期の旗本〔龍ヶ崎市歴史民俗資  
料館〕
- 千葉県立関宿城博物館常設展示図録〔千  
葉県立関宿城博物館〕
- シーボルト父子の見た日本〔東京都江戸  
東京博物館〕
- 旅と信仰〔板橋区立郷土博物館〕
- 考古学トイレ考〔太田区立郷土博物館〕
- 江戸幕府の代官〔同右〕
- 喜多見の遺跡〔世田谷区立郷土資料館〕
- 写された学童疎開〔新宿区教育委員会〕
- 港区ニュータウン地域の暮らし〔横浜市  
歴史博物館〕
- 東海道と神奈川宿〔同右〕
- 二川宿古写真展〔豊橋市二川宿本陣資料  
館〕
- 江戸期の京画壇〔京都大学文学部博物館〕
- 古代人の願い〔亀岡市文化資料館〕
- 第十三回東寺百合文書展〔京都府立総合  
資料館〕
- 八坂神社の古文書〔京都市歴史資料館〕
- 音〔大阪人権博物館〕
- 相撲の造形〔龍野市立歴史文化資料館〕
- 東アジアの仏たち〔奈良国立博物館〕
- 大昔のけものたち〔長野市立博物館〕
- ながめて、のぞいて、きりぬいて〔土浦  
市立博物館〕
- 禅僧雲居希膺〔吹田市立博物館〕
- 法隆寺秘宝展〔サントリ―美術館〕
- 近代版画に見る東京〔東京都江戸東京博  
物館〕
- 歌川国貞〔静嘉堂文庫〕
- 〔林田文書コピー綴〕〔鶴岡実枝子〕
- 水辺の文化の再発見〔吹田市立博物館〕
- 平成七年度〔第四十七回〕正倉院展目録  
〔奈良国立博物館〕
- 飛騨資料〔増補飛騨国中案内〕
- 飛騨遺業合府
- 飛騨編年史要
- 夢物語〔飛州大原騒動回想録〕
- 飛騨山川
- 大英図書館秘蔵コレクションとその歴史  
史跡高山陣屋跡修理及び環境整備工事報  
告書
- 和歌山県文書館例規集〔和歌山県立文書  
館〕

館]

北海道立文書館所蔵資料目録 11 [北海道立文書館]

北海道立文書館所蔵公文書件名目録 11 [北海道立文書館]

北海道立文書館]

小樽商科大学経済研究所特殊文献目録 10 [小樽商科大学]

釧路市立博物館収蔵資料目録 XVI [釧路市立博物館]

小樽市博物館収蔵資料目録 [小樽市博物館]

苫小牧市博物館所蔵資料目録 10 [苫小牧市博物館]

北海道立アイヌ民族文化研究センター資料目録 1 [北海道立アイヌ民族文化研究センター]

青森県立郷土館収蔵資料目録 第6集 [青森県立郷土館]

古文書近世史料目録 第18号 [山形大学附属博物館]

寒河江市史料所在目録 第8集 [寒河江市]

歴史資料館収蔵資料目録 第27集 [福島県文化センター]

福島県西会津町史料目録 第8集 [福島県]

鳥島 [西会津町]

資料目録 38, 39 [茨城県立歴史館]

筑波大学和漢貴重書目録 [筑波大学附属図書館]

文書館]

群馬県立文書館収蔵文書目録 14 [群馬県立文書館]

群馬県行政文書件名目録 第8集 [群馬県立文書館]

群馬県史収集複製資料目録 第3集 [群馬県立文書館]

馬場立文書館]

秋本家寄贈資料リスト [館林市立資料館]

埼玉県立文書館収集文書目録 第34集 [埼玉県立文書館]

三郷市史料所在目録 IV [三郷市]

埼玉県立文書館収蔵地図目録 市町村作成地図目録 I [埼玉県立文書館]

八潮の行政文書目録 庶務・行政・財務編、税務・戸籍・土地・教育編 [八潮市]

成田山仏教図書館新着図書目録 第80号 [成田山仏教図書館]

武蔵国豊島郡戸塚村名主中村家文書目録 (増補改訂版) [新宿区新宿歴史博物館]

東京都公文書館所蔵庁内刊行史料目録 31 [東京都公文書館]

三井文庫所蔵資料 主要帳簿目録 (江戸本店・大坂本店等作成分) [三井文庫]

東京都立中央図書館東京資料目録 年鑑・年報 (1995年9月末) [東京都立中央図書館]

港区立港郷土資料館所蔵文書目録 [東京都港区立郷土資料館]

茅ヶ崎市史料所在目録 (10) [茅ヶ崎市]

新聞記事目録 第8集 [平塚市博物館]

横濱市史料所在目録 近・現代第6集 [横濱市]

横濱市歴史博物館資料目録 第2、3集 [横濱市歴史博物館]

港北ニュータウン地域民俗資料目録 [横濱市歴史博物館]

浜市歴史博物館]

寒川町史料所在目録 第11集 [神奈川県]

寒川町史新聞記事目録 第8集 [同右]

時国信広家文書仮目録 (第一次採訪文書) [神奈川県]

時国健太郎家文書仮目録 (第二次採訪文書一、二、第三次採訪文書) [神奈川県]

環日本海経済交流に関する文献目録 (第5輯) [富山大学]

蔵書目録 (書名索引・文学編) [富士吉田市立図書館]

中山道八幡宿本陣・問屋小松家古文書目録 [長野県]

岐阜県行政文書目録 昭和49年度編 (1) [岐阜県歴史資料館]

沼津市明治史料館史料目録 17, 18 [沼津市明治史料館]

小山町史料所在目録 第21集 [静岡県]

富士市史料目録 第7輯 [富士市]

名古屋博物館蔵品目録 第1分冊総集・考古編 [名古屋博物館]

愛知県武豊町・三井傳左衛門家文書目録 上、中、下巻 [日本福祉大学]

神宮皇学館及び神宮皇学館大学発行雑誌類所収の学術論文目録 [皇学館大学]

清代中国・琉球関係檔案史料展示目録 [沖縄県公文書館]

滋賀大学経済学部附属史料館所蔵史料目録 第四十五集 [滋賀大学経済学部]

彦根城博物館古文書調査報告書 II、III [彦根城博物館]

三条衣棚町文書目録 [京都町触研究会]

玄武洞文庫目録 (追加寄贈) [大阪府立中之島図書館]

大阪府立中之島図書館・大阪府立夕陽丘図書館増加図書目録 (累積版 平成21年度) 1-4 [大阪府立中之島図書館]

大阪商業大学商業史研究所資料目録 第4集 [大阪商業大学]

甲斐国巨摩郡河原部村小林家文書 (布屋文庫) [財] 阪急学園池田文庫]

姫路市史編集資料目録集 47 [姫路市]

記録室文庫目録 [震災活動記録室]

収蔵資料目録 一 [和歌山県立文書館]

行政資料目録 追録第4号 [鳥取県立公文書館]

鳥取県立博物館 安富コレクション目録  
〔鳥取県立博物館〕

広島県立文書館複製資料目録 第4集  
〔広島県立文書館〕

広島県立文書館収蔵文書目録 第3集  
〔広島県立文書館〕

広島市公文書館所蔵資料目録 第20集  
〔広島市公文書館〕

広島市行政資料目録 市政資料編追録10  
〔広島市公文書館〕

山口県文書館地方調査員調査報告 23  
〔山口県文書館〕

山口県文書館蔵行政資料目録 3〔山口  
県文書館〕

山口県文書館諸家文書目録 3〔山口県  
文書館〕

香川県立文書館収蔵文書目録 第2集  
〔香川県立文書館〕

筑後鷹尾文書〔九州歴史資料館分館柳川  
古文書館〕

資料目録〔長崎市立博物館〕

勢州鳥羽領小俣村新出奥野家文書〔要録〕  
〔三重県〕 小俣町教育委員会

近代日本の女性と政治特別展展示目録  
〔憲政記念館〕

日本経済史 第九文献〔日本経済史研究  
所〕

経済史文献解題 1995〔平成7〕年  
版〔清文堂〕

鶴岡八幡宮年表〔鶴岡八幡宮〕

浅草寺日記 第十八卷〔金龍山浅草寺〕  
唐金梅所と李東郭〔べりかん社〕

江戸の出版 II〔べりかん社〕

江戸幕府役職武鑑編年集成 1、3、5、  
6〔東洋書林〕

わたしたちに刻まれた歴史 追憶の古島  
敏雄・百合子先生〔古島敏雄・百合子  
御夫妻追悼文集刊行会〕

慶応義塾図書館所蔵日本古刊本図録 下  
〔慶応義塾図書館〕

神奈川大学史資料集 第十二集〔神奈川  
大学〕

郵政省郵政研究所附属資料館研究調査報  
告 7〔郵政省郵政研究所〕

図像蒐成 IV〔仏教美術研究上野記念財  
団〕

五所川原市史 史料編2下巻〔五所川原  
市〕

新編弘前市史 資料編2〔弘前市〕  
弘前藩の刑法典 十九、二十〔橋本久〕

青森県立郷土館調査報告 第37、38集〔青  
森県立郷土館〕

仙台市史 資料編2、特別編2〔仙台市〕  
東北歴史資料館資料集 39、40〔東北歴  
史資料館〕

鹿角市史 第四巻〔鹿角市〕  
新庄市史 第四巻〔新庄市〕

米沢市史 第五巻〔米沢市〕  
新庄市史編集資料集 第20、24号、別冊

羽州新庄藩の家臣団〔新庄市〕

羽黒山・月山・湯殿山出羽三山資料集中  
巻〔出羽三山神社事務所〕

梁川町史 1〔福島県〕 梁川町〕

龍ヶ崎町史 近現代史料編〔龍ヶ崎町〕  
東海村諸家文書史料〔茨城県〕東海村  
立図書館〕

高根沢町史 史料編II〔栃木県〕高根  
沢町〕

太田市史 通史編自然、通史編原始・古  
代〔太田市〕

幸手市史 近世資料編I〔幸手市教育委  
員会〕

川里村史 資料編2〔埼玉県〕川里村〕  
所沢市史調査資料 35〔所沢市〕

伊奈町史資料調査報告書 第十三集〔埼  
玉県〕伊奈町〕

浦和市史料叢書 2〔浦和市〕  
春日部市埋蔵文化財調査報告書 第4、  
5集〔春日部市〕

村史調査報告書 第四、五集〔埼玉県〕  
川里村教育委員会〕

千葉県の歴史 資料編古代、資料編近現  
代1、別編地誌1〔千葉県〕

君津市史 自然編〔君津市〕  
よみがえる山中直治 童話の世界〔野田  
市郷土博物館〕

板橋区史 資料編3近世〔東京都〕板  
橋区〕

東京市史稿 市街篇第八十七、産業篇第  
四十、篇別目次総覧〔東京都〕

多摩市史叢書 11〔多摩市〕  
里正日誌 第十巻〔東大和市〕  
都史紀要 三十六〔東京都〕

稲城市文化財調査報告書 第14集〔稲城  
市〕

喜多見陣屋遺跡 III〔第1-3分冊〕  
〔東京都〕世田谷区教育委員会〕

地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡発掘調査  
報告 4-1-1、4-1-2、5-1-1〔帝都  
高速度交通営団〕

武蔵村山市史調査報告書 第1、2集〔武  
蔵村山市〕

妙法寺文化財総合調査〔杉並区教育委員  
会〕

上元郷・本宿の生活誌―東京都西多摩郡  
檜原村1〔埼玉大学文化人類学研究会〕

座間市史 3近現代資料編I〔座間市〕  
海老名市史 3資料編近世II〔海老名市〕

図説秦野の歴史〔秦野市〕  
海老名市史叢書 4〔海老名市〕

藤沢山日鑑 第十四巻〔藤沢市文書館〕  
藤沢市史料集(二十)(北条氏所領役帳)  
〔藤沢市文書館〕

横浜市歴史博物館史料集 第1集〔横浜  
市歴史博物館〕

横浜市歴史博物館資料集 第二集〔横浜  
市歴史博物館〕

横浜市文化財調査報告書 第22輯の二、  
三〔横浜市教育委員会〕

伊勢原市史民俗調査報告書 7〔伊勢原

市

横浜市歴史博物館民俗調査報告 第1集

〔横浜市歴史博物館〕

新潟市史 通史編3近代(上)〔新潟市〕

礪波市史 資料編5集落〔礪波市〕

武生市史 資料編(検地帳・村明細帳等)

〔武生市〕

織田町史 史料編中巻(福井県織田町)

都留市史 通史編〔都留市〕

鯉沢町誌 上、下巻〔山梨県 鯉沢町〕

田中大秀翁伝記〔高山市〕

静岡県史 資料編8中世四、通史編3近

世一、通史編5近現代一、別編2自然

災害誌〔静岡県〕

沼津市史 史料編古代・中世〔沼津市〕

韭山町史 別篇資料集四〔静岡県 韭

山町〕

豊田町誌 通史編〔静岡県 豊田町〕

四日市市史 第十四巻史料編現代I、第

十巻史料編近世III〔四日市市〕

草津市史資料集 5〔草津市〕

城陽市史 第四巻〔城陽市〕

網野町誌 下巻〔京都府 網野町〕

三和町史 下編(通史編)〔京都府 三

和町〕

宇治市埋蔵文化財発掘調査概要 第31、

34集〔宇治市教育委員会〕

泉佐野市埋蔵文化財発掘調査報告 第42

〜44集〔泉佐野市〕

泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成

6年度〔泉佐野市〕

姫路市史 第十一巻上史料編近世2〔姫

路市〕

羽ノ浦町誌 自然環境編〔徳島県 羽

ノ浦町〕

江戸時代人づくり風土記 36徳島〔農山

漁村文化協会〕

町史ことひら 1〔自然・環境・生物・

古代・中世〕〔香川県 琴平町〕

水巻町文化財調査報告書 第3、4集

〔福岡県 水巻町教育委員会〕

新熊本市史 史料編第一巻考古資料、史

料編第四巻近世II、別編第二巻民俗文

化財〔熊本市〕

五和町史 資料編(その5)〔熊本県

五和町〕

大分県先哲叢書(普及版) 大友宗麟、

滝廉太郎、矢野龍溪資料集第一〜三巻

〔大分県教育委員会〕

奄美史料(26)〔鹿児島県立図書館〕

重点領域研究「沖繩の歴史情報研究」

〔岩崎宏之〕

松本市史 第一巻自然編、第二巻歴史編

I〔松本市〕

東京裁判却下未提出弁護側資料 第一〜

八巻

東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫所

蔵雑誌目次総覧 第91〜114巻

大日本史料 第三編之二十四、第六編之

四十三、第十一編之二十一〔東京大学

史料編纂所〕

大日本古文書 家わけ第十八東大寺文書

之十六、家わけ第二十一蜷川家文書之

六〔東京大学史料編纂所〕

大日本古記録 中右記(二)、深心院関

白記〔東京大学史料編纂所〕

大日本近世史料 市中取締類集二十二、

細川家史料十五〔東京大学史料編纂所〕

日本関係海外史料 イエズス会日本書翰

集〔東京大学史料編纂所〕

日本荘園絵図聚影 一下東日本二〔東京

大学史料編纂所〕

龍ヶ崎市史近世調査報告書 II〔龍ヶ崎

市教育委員会〕

中世石造遺物調査概報(4)〔埼玉県教

育委員会〕

我孫子市史資料 近現代編別冊I「増田

実日記I」〔我孫子市教育委員会〕

北区史 民俗編3〔東京都北区〕

日の出町近代年表・統計資料〔(東京都)

日の出町教育委員会〕

かつしかブックレット6 スターウォツ

チングに出かけよう! vol.2〔葛飾区

郷土と天文の博物館〕

麻布電土坂口町町屋敷遺跡発掘調査概要

報告書〔東京都港区教育委員会〕

三河台町遺跡発掘調査報告書〔東京都港

区教育委員会〕

芝田町四丁目遺跡発掘調査報告書〔東京

都港区教育委員会〕

史料館の

学術雑誌が閲覧できます!

史料館では、史料目録、地方史誌  
について、所蔵している各種の学術  
雑誌を公開しています。閲覧が出来  
るものは、「地方史研究」など約一  
二〇〇タイトルです。学会誌はもち  
ろんのこと、自治体史編纂にかかわ  
る研究誌も多く取り揃えております。  
どうぞご利用下さい。著作権法に抵  
触しない限り複写することもできま  
す。

雑誌の公開についてのお問い合わせ  
は、情報閲覧室(内線五二一)へ。

# 彙報

○平成九年度史料管理学研修会(第四三  
回)の開催

本年度の長期研修課程は、前期が平成  
九年七月一日〜七月二八日、後期が平成  
九年九月一日〜九月二六日の日程で東京  
会場(国文学研究資料館)にて開催され  
た。短期研修課程は、平成九年十一月一  
〇日〜十一月二二日の日程で、沖繩会場  
(沖繩県公文書館)において開催される  
(受講者は決定済み)。なお、カリキュ  
ラムは別掲の通り。

# 1997年度 史料管理学研修会 カリキュラム構成

## A. 長期研修課程（東京会場）

### 一 [文書館総論]

- 1、文書館の歴史 史料館助教授 大友 一雄
- 2、現代の文書館とアーキビストの役割  
史料館長 森 安彦
- 3、地域社会と文書館  
八潮市立資料館長 遠藤 忠
- 4、文書館の法律問題  
東京大学名誉教授 井出 嘉憲
- 5、史料の利用と普及活動  
史料館助教授 山田 哲好

### 一 [記録史料論]

- 1、記録史料論総論 史料館教授 丑木 幸男
- 2、情報とコミュニケーション  
IRIS 情報学研究所長 仲本秀四郎
- 3、組織体と記録 日本大学商学部教授 友安 一夫
- 4、古代中世史料論  
東京大学史料編さん所助教授 林 譲
- 5、近世史料論Ⅰ（総論・幕藩寺社の史料）  
史料館助教授 大友 一雄
- 6、近世史料論Ⅱ（村の史料）  
史料館教授 高木 俊輔
- 7、近世史料論Ⅲ（町の史料）  
史料館助手 渡辺 浩一
- 8、近現代史料論Ⅰ（行政の史料）  
史料館教授 鈴江 英一
- 9、近現代史料論Ⅱ（個人の史料）  
国立国会図書館政治史料課長補佐 井坂 清信
- 10、近現代史料論Ⅲ（民間の史料）  
史料館教授 丑木 幸男
- 11、近現代史料論Ⅳ（大学の史料）  
東海大学課程資格教育センター専任講師 日露野好章
- 12、史料論特論（被差別の史料）  
五郎兵衛記念館学芸員 斎藤 洋一

### 一 [記録史料管理論(1)一総論及び調査収集論]

- 1、記録史料管理論総論 史料館教授 鈴江 英一
- 2、記録管理論 あふれんつ研究所代表 作山 宗久
- 3、史料調査論 史料館助手 渡辺 浩一
- 4、官公庁文書の評価と移管  
北海道立文書館公文書係長 遠藤 龍彦
- 5、地域史料の収集と受入  
神奈川県立公文書館郷土資料課副主幹 小松 郁夫  
同 副主幹 田島 光男
- 6、史料管理学特別講義  
史料館併任助教授 藏持 重裕

### 一 [記録史料管理論(2)一整理記述論]

- 1、史料整理と目録編成の理論  
史料館助手 福田 千鶴
- 2、近世史料の整理と目録編成Ⅰ  
史料館助手 福田 千鶴
- 3、近世史料の整理と目録編成Ⅱ  
史料館助手 福田 千鶴  
同助手 渡辺 浩一
- 4、近現代史料の整理と目録編成  
史料館教授 鈴江 英一  
同助教授 山田 哲好
- 5、文書館とコンピュータ  
国文学研究資料館研究情報部助教授 原 正一郎  
史料館助教授 山田 哲好

### 一 [記録史料管理論(3)一保存管理論]

- 1、文書館における史料保存活動  
史料館助手 青木 睦

## 2、史料の保存環境と劣化損傷要因

- 東京国立文化財研究所部長 増田 勝彦  
東京芸術大美術学部助教授 稲葉 政満  
史料館助手 青木 睦
- ## 3、史料の劣化損傷の予防
- 史料館助手 青木 睦
- ## 4、劣化損傷史料の保存修復Ⅰ
- 東京国立文化財研究所部長 増田 勝彦  
東京芸術大美術学部助教授 稲葉 政満
- ## 5、劣化損傷史料の保存修復Ⅱ
- 宮内庁書陵部修補師長 横山 謙次  
同 総理府技官 篠原 宏
- ## 6、マイクロ写真の利用
- 日本写真映像専門学校名誉校長 後藤 公明
- ## 7、文書館の防災対策
- 国際連合地域開発センター防災計画主幹 小川雄二郎

### 一 [史料管理の実際一施設訪問]

- 1、八潮市立資料館における史料管理  
八潮市立資料館長 遠藤 忠
- 2、東京大学史料編纂所における史料管理  
東京大学史料編さん所助手 山口 和夫
- 3、国立公文書館における史料管理  
国立公文書館主任公文書専門官 田口 正志
- 4、国立国会図書館における史料管理  
国立国会図書館政治史料課長補佐 井坂 清信
- 5、神奈川県立公文書館における史料管理  
神奈川県立公文書館郷土資料課長 樋口 雄一  
同 行政資料課長 平岡 高弥

## B. 短期研修課程（沖縄会場）

### 一 [文書館総論]

- 1、現代の文書館とアーキビストの役割  
史料館長 森 安彦
- 2、国際化と文書館  
沖縄県公文書館長 宮城悦二郎  
琉球大学法文学部教授 A. P. ジェンキンス

### 一 [記録史料論]

- 1、記録史料論Ⅰ  
史料館教授 丑木 幸男
- 2、記録史料論Ⅱ  
元沖縄県立博文館長 糸数 兼治  
沖縄県公文書館資料館第一課長 宮城 剛助  
同 外国語翻訳嘱託員 仲本 和彦

### 一 [記録史料管理論]

- 1、官公庁文書の評価と移管  
沖縄県公文書館公文書専門委員 豊見山和美
- 2、地域史料の調査と収集  
沖縄県教育庁文化課課長補佐 宮城 保
- 3、史料の整理と目録編成  
史料館教授 鈴江 英一
- 4、文書館とコンピュータ  
史料館助教授 山田 哲好
- 5、史料の保存環境と劣化損傷の予防  
史料館助手 青木 睦
- 6、劣化損傷史料の保存修復  
(株)宇佐美松鶴堂代表取締役 宇佐美直八  
同 取締役 宇佐美直秀  
同 取締役 田中 保
- 7、史料の利用と普及活動  
史料館助教授 安藤 正人

### 一 [史料管理の実際一施設訪問]

- 1、沖縄県公文書館における史料管理  
沖縄県教育庁文化課課長補佐 宮城 保  
沖縄県公文書館公文書主任専門員 富永 一也

○大学院原典購読セミナー

本年八月二十五日～二十九日の日程で開催され、当館助教山田哲好が「松代藩真田家文書の日記の世界―「日記繰出」を読む―」のテーマで三コマを担当した。

○評議員会と運営協議員会の開催

本年七月四日に評議員会が、六月二十六日に運営協議員会がそれぞれ開催され、管理運営について評議ないし協議された。

○文部省科学研究費の交付

・基盤研究A「歴史史料の材質劣化評価への化学発光の応用研究」(代表 丑木幸男)に三年計画の二年目として二三〇万円が交付された。

・基盤研究A「幕藩領主文書と村方・町方文書群の発生・展開・伝存に関する史料学的研究」(代表 森安彦)に三年計画の三年目として一七〇万円が交付された。

・研究成果公開促進費「史料所在データベース」(代表 森安彦)に、二八五万円が交付された。

・国際学術研究「在欧日本史料の所在と現状に関する調査」(代表 森安彦)に三年計画の一年目として七八〇万円が交付された。

・重点領域研究「諸藩江戸屋敷のネットワーク―大名家文書複合化の研究」(武井 協三・大友 一雄・福田 千鶴)に七〇万円が交付された。

・基盤研究C「幕末維新期における農民日記に関する研究」(代表 高木俊輔)に二年計画の二年目として六〇万円が交付された。

・基盤研究C「史料に用いられた紙資料群の科学的類別に関する研究」(代表 青木睦)に三年計画の二年目として五〇万円が交付された。

・基盤研究C「近世の国家的祭祀儀礼に関する基礎的研究」(代表 大友一雄)に三年計画の一年目として一八〇万円が交付された。

○館内研究会

〔二六六回〕四月一七日  
菅浦文書の現状と伝存について  
史料管理研究室併任助教 蔵持重裕

〔二六七回〕五月一三日  
史料所在データベースの公開とシステム開発について  
史料管理研究室客員教授 永村 眞  
史料館のホームページをめぐる

〔二六八回〕五月二二日  
欧州の日本史料所在情報について  
国文学研究資料館文献資料部教授 山崎 誠

〔二六九回〕六月二二日  
史料管理学研修会講義準備報告  
文書館の歴史 大友 一雄  
ブリテン島文書館の歴史 渡辺 浩一

史料整理と目録編成の理論・近世史料の整理と目録編成 福田 千鶴

○人事異動

採用(本年四月一日付け)  
史料管理研究室(再任)  
客員教授(日本女子大学)

水村 眞  
COE非常勤研究員(再任)  
講師 森本 祥子

併任(本年四月一日付け)  
史料管理研究室(再任)

助教授(滋賀大学) 蔵持 重裕  
転出(本年四月一日付け)  
情報閲覧室 藁谷美枝子  
(東京大学文学部図書第一掛へ)

転入(本年四月一日付け)  
情報閲覧室 吉岡栄美子  
(東京大学史料編纂所史料掛から)

館内異動(本年四月一日付け)  
史料館兼務(命) 竹之内重雄  
(庶務課専門職員) 林 宏保  
史料館兼務(免)

採用(本年四月一日付け)  
リサーチ・アシスタント 五島 敏芳  
(学習院大学大学院)

採用  
(本年四月一六日付け)  
研究支援推進員 奥田 和美

(本年五月一日付け)

清水 泉二

同  
内地研究員(本年五月一日付け)  
東京外国語大学 吉田ゆり子  
辞職(本年八月三十一日付け)  
事務補佐員 大崎 博仁

採用(本年九月一日付け)  
事務補佐員 中西 裕美

平成一〇年度史料管理学研究会(通算四四回)の開催予定  
長期研修課程(会場:国文学研究資料館)  
前期一〇年六月二十九日～七月二四日  
後期一〇年八月三十一日～九月二五日  
短期研修課程(会場:国文学研究資料館)

一〇年一月九日～一月二〇日  
(前・後期、短期とも最後の一週間はレポートの作成にあてる)

史料館報 第六七号

平成九年(一九九七)九月三十日  
編集兼 国文学研究資料館  
発行者 史料館  
〒四一 東京都品川区豊町一ノ六ノ〇  
電話〇三(三七八五)七一一(代)  
FAX〇三(三七八五)四四五六